

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年4月12日時点)

➤ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍への抵抗を継続するとともに反転攻勢に向けた準備を進める一方、露軍は東部における占領地拡大に向けた作戦や各地の非軍事施設に対する攻撃を継続している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約6万~7万人 (CSIS2月27日)

: 死者約17万3360人、戦車3615両、装甲車両6977両(「ウ」国防省3月31日)

: 死傷者約18万人(クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

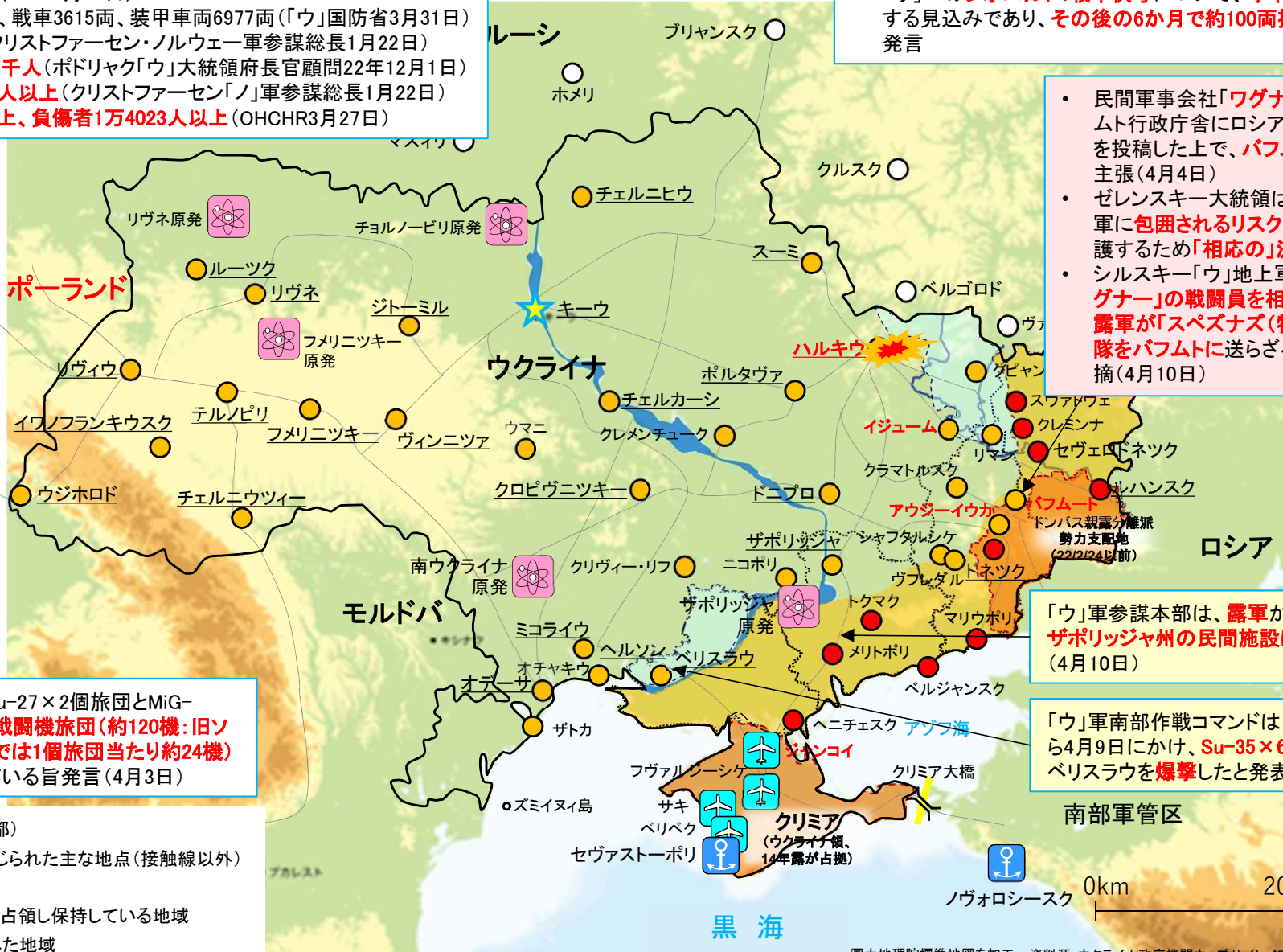
「ウ」軍: 死者最大約1万3千人(ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

: 死傷者推定10万人以上(クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者8401人以上、負傷者1万4023人以上(OHCHR3月27日)

- ポウルセン・デンマーク国防相は、ドイツ及びオランダと共同で実施する「ウ」へのレオパルド1戦車供与について、今年夏までに引き渡しを開始する見込みであり、その後の6か月で約100両提供できる可能性があると発言

- 民間軍事会社「ワグナー」のプリゴジン、パフムト行政庁舎にロシア国旗を掲げたとする動画を投稿した上で、パフムトを「法的に」掌握したと主張(4月4日)
- ゼレンスキー大統領は、パフムトで「ウ」軍が露軍に包囲されるリスクがある場合には、兵士を保護するため「相応の」決断を下すと発言(4月5日)
- シルスキー「ウ」地上軍司令官は、「ウ」軍が「ワグナー」の戦闘員を相当程度消耗させたため、露軍が「スペズナズ(特殊任務部隊)」や空挺部隊をパフムトに送らざるを得なくなっている旨指摘(4月10日)



- 「ウ」空軍報道官は、Su-27×2個旅団とMiG-29×3個旅団の計5個戦闘機旅団(約120機:旧ソ連諸国の空軍の編成では1個旅団当たり約24機)を「ウ」空軍が保有している旨発言(4月3日)

「ウ」軍参謀本部は、露軍がS-300防空ミサイル2発をザポリヅジャ州の民間施設に向けて発射したと発表。(4月10日)

「ウ」軍南部作戦コマンドは、露軍が4月8日の夜間から4月9日にかけて、Su-35×6機を用いてヘルソン州のベリスラウを爆撃したと発表。(4月9日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域